

会 議 録				
平成29年度第3回 生活支援事業協議体	日 時	平成30年1月26日(金) 14時00分～ 時 分	場 所	前原暫定集会施設 A会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委員	高良委員長(東京学芸大学) 近江屋委員(ボランティアセンター) 阿久津委員(地域福祉コーディネーター) 清水委員(民生委員児童委員協議会) 第2層コーディネーター 黒松氏(小金井きた地域包括支援センター) 石川氏(小金井ひがし地域包括支援センター) 馬場氏(小金井みなみ地域包括支援センター) 雨宮氏(小金井にし地域包括支援センター)		
	事務局	長谷川、松原、所(介護福祉課)		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1)報告事項				
① 平成29年10月～12月分の連絡会議報告				
② 応援ブックについて				
③ 小地域ケア会議について				
④ 移動販売について				
(2)協議事項				
① 月報・活動報告・評価シートについて				
② 平成30年度のスケジュールの確認				
3 その他				
4 閉会				
1 開会				
(松原)				
本日は豊島区民社会福祉協議会から生活支援コーディネーターの三枝様、豊島区役所から高齢福祉課高齢者福祉担当係長の安達様、基幹型センターグループ係長の澤田				

様、阿部様に、傍聴に来ていただいております。

また、きた包括から、福井氏・成田氏の2名が、今後小地域ケア会議を担当するというので、参考のために傍聴に来られています。

2 議題

(1) 報告事項

①平成29年10月～12月分の連絡会議報告

(松原)

10月の生活支援連絡会では、主に月報の様式変更、日報に当たる活動報告の作成について、話し合いをさせていただきました。

現在の月報は、総合事業開始に当たり作成されたものであり、実際に総合事業を進めるうちに、見直しが必要になってきたため、生活支援連絡会の変更案等について、話し合いをいたしました。本件につきましては、この後の(2)協議事項で協議をお願いしたいと思っております。

11月の連絡会に関しましては、主に小地域ケア会議の振り返りや会議体の関連図を用いて、生活支援事業に係る各会議体の関連性について、確認をさせていただきました。本件につきましては、報告事項③で詳しく御報告をさせていただきたいと思っております。

12月の連絡会につきましては、初の試みといたしまして、生活支援事業の担当者と介護予防事業の担当者を招き入れ、合同で開催することにいたしました。地域包括ケアシステムの構築に向け、生活支援、介護予防については、住民が主体的に参加し、自らが担い手となっていくような地域づくりが必要だと考えております。生活支援事業と介護予防事業は、共に住民運営の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて参加者や通いの場が継続していくような地域づくりを推進するという、共通の方向性をお互いに有していることから、今後も引き続き連携して、地域づくりに取り組んでまいりたいと考えております。

②応援ブックについて

(松原)

平成29年度版応援ブックを今年度は1,000部発行いたしました。市民の方々、ケアマネジャー等介護事業所からのお問い合わせも多く、来年度は発行部数を5,000部予定しています。また、地図の掲載を行い、より魅力的な冊子として、更新していきたいと考えております。

(清水委員)

第七期介護保険事業計画策定委員会の会議で、計画に集いの場を各圏域に一つ以上増やす計画が入っていますが、新たにできた場合に次年度の応援ブックに情報を入れ込むことは可能なのでしょうか。

(松原)

来年度の発行の予定としましては、4月に入りましたら、再度、情報の収集に努めまして、7月ごろに情報を集め終わります。9月ごろの発行を目指していく段階ですので、それまでに新しい情報等が入れば、ぜひ2層のコーディネーターにお伝えいただければと思います。

③小地域ケア会議について

(所)

今回生活支援連絡会にて、平成27年度から今年度までの小地域ケア会議の振り返りを行いつつ、各会議体の意味や目的及びその関連性について確認を行いました。会議体の関連図の補足の説明といたしまして資料2-1を参考にしつつお聞きいただければと思います。

それでは、今からコーディネーターの皆様順番で、これまでの小地域ケア会議の振り返りを行った感想を一言ずつ発表していただきたいと思います。

(雨宮氏)

小地域ケア会議振り返りシートを活用しながら、にし圏域での報告をさせていただきます。

29年度の小地域ケア会議で出た課題は、個別の地域ケア会議でちょっとした支援が必要な方の例を出し、個人レベルのボランティア力について検討いたしました。また、グループワークにて、ボランティアと日常生活で困ったとき、あなたは何かをしてもらいたいですか、何ができますかということをお話ししました。出た御意見を4ページから9ページにまとめさせていただいております。やっていただきたいこと、できることを対比しますと、各グループとも、中でやっていただけること、やってもらいたいことは、共通の課題が出る場合がございます。この結果から、そういったところのコーディネートができるといいのではないのだろうか、話し合いが進みました。

29年度に出た課題については、30年度に向けて、今後どういったことができるのか、どういったことが必要なのかというところを、ボランティア力・居場所についても検討していく予定です。また、そういった社会資源をケアマネジャーに使っていただけるように、調整していけたらと思っております。

平成27年度と28年度の振り返りにつきましては、この表に書いたことによりまして、何ができて、何ができていないのかということが、明確になりました。27年度に課題を把握して社会資源を確認しながら、28年度には各居場所というものが、地域に1カ所ずつでき上がりました。以上です。

(清水委員)。

求められているボランティアについては、シルバー人材センターでほとんどやって

いることが多いのではないかという気がしますので、シルバー人材センターの人も小地域ケア会議に出てもらったほうがいいのではないかという気がします。あるいは社協のボランティアセンターがそういうものをまとめて、マッチングすることができるのではないかと思います。

(近江屋委員)

地域ボランティアの会という、ちょこっとしたお手伝いとか、ひとり暮らしの方のお宅に行って、お話し相手などをしているボランティアの団体があるのですけれども、高齢化してきて、そこまで対応するのは、今のところ、難しくなっています。

(高良委員長)

既にいろんな活動をされているのであれば、そこを基盤として広げていく方が動きやすいと思いますが、地域ボランティアの会とはどのような組織なのですか？

(近江屋委員)

20年前に社協がボランティアを養成して、地域ボランティアの会をつくりました。今も事務局をボラセンがやっているのですけれども、高齢化のため人数も減って、これからどうするかというのは課題ではあるのですけれども、大規模に動くというのは難しいのが現状です。

(高良委員長)

何らかの形で情報をマッチングしていくみたいな機能は必要になってくるのではないかと思います。その際に、できれば新たなものをつくるよりもとは思ったのですけれども、お話を伺っていると、かなり大変な状態になっていることを考えたら難しいかもしれません。

ただ、1つ思うのは、あくまで生活支援だから高齢者だけでという形では、終わらせないほうがいいのではないかと思います。

また、実際のマッチングに関しては、第3層のコーディネーターが担っていくと、国のほうでは言っていますが、第3層を新たにどこに委託するのかどうかみたいなものは、まだ何も出ていないし、日本で、実際に第3層でしっかり動いている所は無いです。

具体的なマッチングをするとすると、何らかの組織みたいなものが必要になってくるので、今後の大きな課題ではないかと思いますが、ボランティアということになると、社協さんの蓄積がおありだと思いますので、そのところは、お力もいただきながら考えていかなければいけないのだろうと思います。これは課題として、1つ、置いておいてください。

それでは、次は、きた包括の黒松さん、お願いいたします。

(黒松氏)

振り返りシートからお話をさせていただきます。

27年度から28年度の小地域ケア会議に関しては、ちょっとボランティアについて考えるというテーマを進めてまいりました。27年度では、地域の方に、移動、集いの場、見守りという点に関して、どのようなことができるかとか、意見をいろいろと出していただく会にしまして、28年度の会議では、実際にボランティアを地域でされている方々のお話を聞く機会という形で開催しました。

また、今年度としては、高齢者の運転に関してということで、テーマを設けています。個別地域ケア会議で、御高齢の89歳の方の運転に関する問題を取り上げたことがきっかけではありますが、地域でも身近な問題になってきているということと、道路交通法の改正が29年3月にあったことも踏まえて、警察の方や事業所の方、地域の方に来ていただいて行いました。その報告が2枚目の個別報告書になります。

実際、38名の方に参加いただいて、地域でひとり暮らしの運転をしている高齢者を仮の例として挙げ、グループワークで対応策について話し合いをしました。話し合いの中でC o C oバス等の公共交通機関が充実や、車に乗らないで済む環境をつくるのが大事だとか、昔のような近隣の方々に頼めるような関係性をつくれるといいというような意見が出ました。

運転とちょっとボランティアについて、ここ3年で話し合うことができましたので、来年度に関しては、それらを形にしていければと考えております。例えば買い物をして荷物を運んでくれる人がいたらとか、移動販売を充実させていくことなどを、具体的に話を進めていければと考えております。

(高良委員長)

今回、以前お話されていたちょっとボランティアと、今回の高齢者の方の免許の話をつなげ焦点化されており、一段と具体的な案が検討できるのではないかと思います。

それでは、続きまして、みなみさん、馬場さん、お願いいたします。

(馬場氏)

小地域ケア会議の振り返りシートの27年度から、報告させていただきたいと思えます。

平成27年度は、小地域ケア会議のテーマとして、基本チェックリストから見える地域の課題というタイトルで開催しました。その中で見えてきたことといえば、本町6丁目地域の再開発で、近隣とのコミュニケーションが希薄になっていることとか、前原1～2丁目エリアですと、暮らす方々も高齢化が進んで、駅からも遠くて、お店も減ってきているという課題であったり、貫井南エリアですと、坂道が多くて地形的にもいろいろな問題があるので、買い物にも不便を感じているというお話がありました。また、近隣の方たちの交流の場が少ないとか、商店が少ない、活動するサークル、集いの場が少ないといった課題を解決をしていかなければいけないということで、前

原1～2丁目の集いの場についての検討とか、近所にある東京工学院専門学校に御相談をさせていただいて、集い場の立ち上げをしていこうという話になりました。

28年度は、買い物などの課題がまだ解決しないこともあって、当時は、高齢者の集いの場、買い物について考えるというテーマで話し合いを行いました。ここでは、前年度の課題で始めた、前原町のサロンの立ち上げが、地域住民の方々の協力を得てできたり、東京工学院専門学校での体操教室を立ち上げることができたり、前原エリアの整骨院さんに御協力をいただいて、年に1回の集いの場を行うことができるようになりました。

29年度は、誰もが安心して暮らせる町にするにはというテーマにしまして話し合いをしました。ここでは、移動、買い物、世代間交流、認知症の方への対応という話題が出てきました。

今後の方針のところでは、買い物、居場所づくりは、今までどおりの取り組みを続けていながら、広報活動としてより住民の方たちの活動を包括が協力して広めていくということとか、世代交流の場が図れる機会をこれから検討していく予定です。

(高良委員長)

27年度からの流れがしっかりと継続していると思います。実際、それぞれの課題に対応しての居場所であるとか、社会資源も開発されてこられていらっしゃるのので、そういった蓄積を皆さんにお示しすることによって、地域の方々も、ここで話せばいけそうみたいな感覚をお持ちになられているのではないかと思います。そういったところをもっと広げていかれるということだと思います。

C o C oバスの課題についてはずっと挙がっているため、自分たちでどうにかしてということだけではなくて、実際に乗る人が多い時間はどうかとか、実態をしっかりと把握して市レベルの地域ケア会議にも上げていくことも重要なことであると思います。その際には、C o C oバスの担当所管が、時間帯の本数やルートをどうしていくかみたいな話は、検討ができることだと思いますので、実際に活用できるような状況もつくれていけるのではないかと思います。

ありがとうございました。次はひがし包括お願いします。

(石川氏)

ひがしとしましては、G I Sのデータを参考にしたところ、他圏域より鬱の傾向が高かったり、閉じこもりの傾向が高いという結果が出ておりました、この背景をもとに、高齢者の方が利用しやすい、通いやすい居場所が少ないのではないかと思います。課題に注目して、対応してきました。

小地域ケア会議の中で、グループワークを行った際に、居場所になるような場所を作ったり、世代間交流ができる機会をつくる等のことができないかという話ができました。そこで、実際に新小金井の駅前で子供たちとさくら体操をしたり、5カ所サロン

の立ち上げなどを行いました。また、グランダ武蔵小金井有料老人ホームでさくら体操をする機会を設けておりました、現在も月1回のペースで開催しております。

そうした中で、実はひがし圏域内でも、地域によってニーズのばらつきがあるのではないかという結論に至りまして、特に28年度、包括運協の中で、坂下地域の方から、交通手段や店舗の減少で、買い物に困っているという発言が見られたのをきっかけとしまして、地域内での課題のばらつきを解決するために、今後はエリアに特化した会議を行っていったほうがよいのではないかと考えました。そこで、28年度から坂下地域、中町1丁目、4丁目に特化した会議を開催することとなりました。

今回、29年度の小地域ケア会議につきましては、28年度の小地域ケア会議の課題として残っていた、資源の掘り起こしだけではなく、住んでいる住民の方自身が、何か役割を持って行動ができないかというところにテーマを当てまして、買い物をテーマに、地域の方がやれそうなこと、やってみたいことをテーマにしまして、グループワークを行いました。

解決に近づけたこととしては、情報共有ができたということで、アンケートを取ったり、グループワークの中で情報交換ができて、カフェやはけの道の朝市、生協の活用、既に移動販売をしている店舗があることという情報の収集をすることができました。住民から移動販売がどこに何時来ているのか知りたいという希望が上がっていましたので、こういったところの情報の共有ができたことは、とても大きいことだったと思っております。また、移動販売をする場所がないという話があったのですが、実際にグループワークをしていく中で、空きスペースを貸せますという意見もありました。今後、そのような場所の開拓が必要になってくると考えております。

未解決な事項ですが、C o C oバスの増便がありますが、28年度に包括として交通対策課に陳情に行ったのですけれども、実際に状況としては、難しいというお話がありました。

社会資源の情報が行き届かないというお話もありまして、今後、地域の町会の回覧板の活用を検討していく必要があります。次回に向けての課題が見えてまいりました。

今後の方針としましては、実際にグループワークで出てきました、できそうなことについて、特に実現性の高いものにつきましては、移動販売の周知方法、場所について、今後、検討させていただければと思っております。また、情報発信の方法としましては、回覧板を活用していくなど、グランダさんが場所を貸してくださるという話も出てきておりますし、今後、サロンづくりということで、居場所をつくっていく中で、交流する場、情報交換をしていく場を設けていくことを検討していきたいと思っております。あとは、実現性が低かったり、中ぐらいだったりするものの中にも、住民の方から買い物のツアーで車を出しますとか、そういった御意見をいただいております。

ますので、そういった地域の方の声を拾いつつ、対応していきたいと考えております。

(高良委員長)

ありがとうございます。小地域ケア会議で、圏域全体で見ても、エリアによってはかなり違いがあるというのは、そのとおりだと思います。なので、エリアごとに話し合いをする機会を設けることで、一段と身近な人たちで集まって、具体的な話ができただのではないかと思います。また、出てこられた住民の方から、買い物ツアーをするのだったら、車を出すとか、そのような声が上がるとというのが、とてもすばらしいことで、それらが実際にできるようにサポートしていくというのが、重要な役割だと思います。

それでは、小地域ケア会議の御報告をいただきまして、主要な方々、いろんな地域の方々に御参加いただいて、意見を出していただいて、まとめていって、共有していくところは、すごくうまくやられていらっしゃると思います。27年度からちゃんとつながりも見えますし、単発で開催して終わりではなく、ちゃんと見えた課題を引き継ぎながら、お話し合いもされていらっしゃると思います。

今後の課題になってくるだろうと思うのは、具体的にどういう動きにしていくのかということところが難しいところであり、かつやっていかなければいけないことであると思います。そのあたりは、皆さんでもすぐにできるようなこと、やりやすいことから、まず実績をつくっていくのと同時に、発信していっていければと思います。

一部の圏域のところでは、やっていらっしゃることですけれども、資料2-1の会議体の関連図を見ていただいてもわかるように、個別地域ケア会議との関連もつながりがあるわけですから、小地域ケア会議に上げていくという考え方が、今後もっと出てくることも必要なのかもしれない。

一部のところでは、個別地域ケア会議で出た課題を小地域ケア会議に上げているわけですが、そういう形で地域の中や圏域の中で、もしくはエリアの中で共有して、話し合ったほうが良いと思うことを、小地域ケア会議に上げていくことも必要なのだと思いますし、逆に小地域ケア会議に皆さん集まられて、お話されていらっしゃる中で、そこの中で出てきた大きな課題みたいなものについて市全体の地域ケア会議に挙げていく事も大切であると思います。

④移動販売について

(所)

昨年度の地域ケア会議で課題として挙げた、買い物に困難を抱えた高齢者への支援として、第1層及び第2層生活支援コーディネーター、施設事業者、移動販売業者、住民で連携し、地域での移動販売開催の取り組みを行っております。

一例といたしまして、みなみ圏域にある小金井あんず苑では、昨年12月3日、施設の防災活動イベントの時に、移動販売を開催しております。施設1階フロアでは、

住民主体のグループが来場者に対してハンドトリートメントを行う場が設けられ、市民の方から、にぎやかでうれしかった、楽しかったなどの御意見をいただいております。小金井あんず苑では、今後、継続して移動販売を開催予定と伺っております。

そのほか、きた圏域での介護施設の駐車場を利用した移動販売の開催や、ひがし圏域での宅配便など、買い物の支援に対する取り組みが行われております。

我々としても、移動販売という場は、高齢者が集まれる通いの場の1つであると考えます。今後も地域づくりの視点に立って、コーディネーターが地域に積極的に出向き、個別のニーズや地域課題の把握を行い、さらに充実した活動になるよう、取り組んでいきたいと考えております。

(高良委員長)

ありがとうございます。何か補足はありますか。

(馬場氏)

小金井あんず苑は、私の所属している法人の老人保健施設なのですが、以前から小地域ケア会議でも出ている、買い物が大変だという課題に対しまして、小金井あんず苑の駐車場を利用できないかということで、副施設長に相談をしておりました。

今後のところでは、来年度も継続的に月2回ペースで移動販売を定期的に行っていく予定です。

(黒松氏)

きた圏域では、商店街もお祭りでこういった活動をPRしているのと、2月に1年に1回の多世代交流の場として、ピース・ガーデンの場所を借りて、昔遊びを一緒にしたり、たこ焼きをみんなでつくってみんなで食べるというようなイベントを行う予定です。あとは、そこに移動販売車も来てという企画を立てています。

(2) 協議事項

①月報・活動報告・評価シートについて

(所)

現在の月報は、総合事業開始に当たり作成されたものであり、実際に総合事業を進めるうち、見直しが必要になってきたため、生活支援連絡会で変更案を話し合い、作成いたしました。活動報告により、数値の報告では十分に把握できないコーディネーターの活動実績や好事例の把握ができると考えます。また、活動の振り返りの際に活用できるだけでなく、他圏域の生活支援コーディネーターの活動を参考にすることができると考えております。

なお、月報の詳細は、日報に当たる生活支援コーディネーター活動報告で、確認が可能となっております。詳細につきましては、お手元の資料4を御参照ください。

また、評価シートに関しまして、地域課題の根拠を以前のニーズ調査や小地域ケア会議のほかに、総合相談や個別地域ケア会議も加えました。

本日の協議体において、月報、活動報告、評価シートの来年度からの活用可否につきまして、協議をお願いいたします。

(高良委員長)

まず日報案について、意見があればお願いします。

(黒松氏)

今までのものと、ちょっとした打ち合わせをしたとか、実際に会議を積み重ねて、こういったものが成果として上がったというところが載らないものだったと思うのですが、私たちの活動は、いろんな団体や個人に、アプローチをしているので、まとめて、今月はこういう流れでできたという詳しい動きを報告できるという意味では、いいと思います。

(高良委員長)

ありがとうございます。とりあえず、日報に対しては、細かい記入の内容については、追々、連絡会で確認していただきながら、活用していただければいいと思います。

それでは、次、月報はいかがですか。

(雨宮氏)

生活支援に関して、研修会などに参加した場合は、どこにも載らないのですか。

(長谷川)

月報の変更を考えた背景には、今後ますます生活支援のサービスが充実してこなければならぬさなか、包括支援センターの運営協議会で、月報の様式に基づいて数が報告されていることを考えて、今回、生活支援のところをもう少し充実させようという話になりました。というのも、生活支援に割かれる時間は、包括支援センターの業務の中でかなりふえているにもかかわらず、見えないソフトな部分のアプローチが非常に必要な事業ですので、どのぐらいの回数出かけて、どういったアプローチをしているかということ、根拠を求められたときには、月報で報告いただくことが、非常に有効なのではないかと思っておりました。

他の事業においても、それにまつわる研修というのは、様々あるのですけれども、どちらかというところ、地域に対してのフォローを行っていただいている、日常の中で取り組んでいらっしゃる事業のところをもっと拾い上げて、生活支援の事業の大切さをアピールするという目的を、こちらでも打ち出していきたいと考えております。そのため、研修については全体のところで、別途、月報の中に様式を、個別報告でやっていただいたりします。生活支援に関する国とか、都の研修をどのように扱うかというのは、全体の月報の様式検討の中で考えていきたいと思っております。

(高良委員長)

おっしゃっていただいたように、せっかくこれだけ皆さん動いてくださっているのに、しっかりと見える化して伝えていくというのは、すごく重要だと思います。

最後は評価シートです。こちらは、そんなに大きな変化はないのですね。先ほどおっしゃっていただいたように、根拠情報が多少加わった形になります。これについては、よろしいでしょうか。書きづらいということがあれば、おっしゃっていただければと思います。これは、次回、来年度に向けてやってもらうのですか。

(所)

今回の協議体で、これで採用されましたら、来年度から利用していきたいと考えております。

また、様式について、ワード形式からエクセル形式に変えまして、より連続性を持って、後々見直すことができるようなものにしましたので、その点についても、御意見をいただければと思います。

(高良委員長)

ありがとうございます。例えば地域課題の項目を入れれば、別のところに飛べるようになるわけですね。

(所)

はい。また、評価シートの横に、スライドの2として、振り返りシートもコピーさせていただきましたので、同じエクセル内で2つを見比べることが可能となっております。

(高良委員長)

少しでも事務処理が少なくて済むようにということも考え合わせ、それでいながら、ちゃんと評価をしていかなければいけないので、そういったところは、可能な限り、実際に使っていただきながら、連絡会のところで、皆さんの声もいただいて反映していただければと思います。

それでは、今御紹介いただきました、月報、活動報告、評価シートについては、このような形で進めていくこととします。

②平成30年度のスケジュールの確認

平成30年度の第1層協議体は5月、9月、1月に開催を予定。

3 その他

(高良委員長)

それでは、最後、3番目、その他になります。何かありますでしょうか。

(松原)

次回協議体は5月25日金曜日14時から16時 前原暫定集会施設のA会議室にて開催させていただきます。

(高良委員長)

ほかにいかがでしょうか。何かありますか。

(近江谷氏)

今回、地域福祉ファシリテーターが中心となり、ひがし地区にあるエアーズシティというマンションの集会所でサロンをやるというグループと、もう一つ、にしのいこの家で、多世代交流をしたいという若いお母さんたちのグループで、居場所を立ち上げることになりました。

エアーズシティでやるのは、メンバーの人が保育士だったり、社労士だったり、資格を持っている方がいるので、それを生かして、色々な取り組みをやるという形になっております。皆さんの活動でコラボできるものがありましたら、ぜひお願いしたいと思います。清水委員にもファシリテーターとして、御協力をいただいています。

(高良委員長)

先ほども話が出たような、地域でこういうボランティアをしたいとか、そういった方を組織化したりすることがファシリテーターさんにはできるのでしょうか。

(清水委員)

例えばこの前の雪がたくさん積もった時に、自分の家の前は当たり前で、道路のあちらでも一生懸命雪かきをやっている人がいました。ですから、そういう人に、ボランティアをやったらどうですかと、聞いてみることはできると思います。ただその辺の規模を多くして、何人もとりまとめるのは、難しいかもしれません。

(高良委員長)

ありがとうございます。地域福祉ファシリテーターについては、今後もまたいろいろ教えてください。どこまでうまくコラボできるかですね。

(近江谷氏)

ボランティアの講座を開いて集めて養成した後、ボランティアをしましょうとなったときに、後のフォローアップ等が必要になると思うので、事業化した方が望ましいと思います。

(高良委員長)

難しいですね。第3層のコーディネーターは、予算がありませんね。

(長谷川)

まだ予算化はしていません。

(高良委員長)

その辺をどうしていくかということは、市としても検討していかなければいけないのかもしれないですね。せっかく地域にいろんな力があっても、そこを本当に必要な人が使える状況にならないというのは、非常にもったいないことです。

もう時間はないのですけれども、傍聴していただきました、豊島区の方々、御質問等がありましたら、どうぞ。

(澤田氏)

きょうは、見学させていただいて、ありがとうございました。市レベルの地域ケア

会議の構想なのですが、これを見せていただくと、豊島区も8つ包括支援センターがあるのですが、そこで小地域ケア会議に当たる地区懇談会を開催しており、やはり第2層の協議体という位置づけをしています。ただ、このように、コーディネーターなどを包括に配置していないので、第1層の協議体につながる仕組みというのが、包括にも十分に与えられていないので、きょうの報告書の一つ一つの項目は、うちの報告書と同じようなところがあるのですが、見える化の仕方というのは、参考にさせていただくことが多いと思いますので、また改めて質問させていただきます。

(安達氏)

本日は、傍聴させていただきまして、ありがとうございます。私どもも、今1層・2層協議体間で情報を双方向にやりとりする仕組みにすごく課題を抱えています。

現在考えているのは、地区懇談会さんの中でやっている課題などを、相互に共有できる仕組み、さらに拡散、広げていく仕組みを考えております。これまで、1層と2層の間の課題とともに、2層同士でも、いい取り組みが、意外とお互いに共有されていないということがあったので、こういう場で、2層同士で報告し合える仕組みは、非常に勉強になりました。

質問で1点というところで、基本的なことをお聞きして申しわけないのですが、第2層の生活支援コーディネーターさんというのは、各包括の中の職員さんが兼務をされていらっしゃるのですか。それとも、生活支援コーディネーターが配置されるときに、新たに配置された方はいらっしゃるのでしょうか。お願いいたします。

(所)

先ほどの日報をなぜつくったかというところにつながるのだと思いますが、兼務でございます。大変な中これだけの活動をしていただいているというか見える化していこうということで、日報の報告等で、数だけではわからないところを明らかにしていくことも大切だと思っております。

(安達氏)

ありがとうございます。私どももやりとりをしながら、一緒に町全体を盛り上げていく仕組みを考えておりますので、報告書の仕組み等は、大変勉強になりました。本当にありがとうございます。

(高良委員長)

人員配置に関しては、包括も本当に忙しくて課題だとおもいます。今、国の委員会で地域包括支援センターの評価の指標をやっているのですが、その中で、できる限り、調査結果をどう分析して、本当に必要な人員体制はどうかを、わかるような分析方法みたいなものも、今度の報告書で入れようと思っております。それをいかに予算のほうに反映できるようにするか、それこそやり方、ハウツーものも全部載せようと考えています。根拠がないと、なかなか予算が取れないのです。なので、そう

いった意味においても、今回、こういう形で数をしっかりと報告をしていくことは、非常に重要なことだと思えますし、せっかく頑張ってくださいますから、ちょっとでも体制・環境が整備できるように、協議体としてもサポートしていきたいと思えますので、よろしくをお願いします。

どうぞ。

(長谷川)

資料2-1のフローも見ていただいて、会議体の仕組みですとか、地域ケア会議にどうやって課題を持っていくかという最中で、先ほどのフローについては、第7期の事業計画の中での事業の見える化を目標にしております。当係で作成をしたものなのですけれども、我々が、今、所属している包括支援係という係は、40名からなる介護福祉課の中で、10名程度の職員が配置されており、総合事業のほぼ全てのところを担当しております。そのほかに、地域の御相談なども受けている部署です。総合事業が進んでいきますと、庁内の規範的統合がなかなかできずに、係員の中での情報も共有できなくなってきたてしまっていて、今回初めての試みで、今後、続けていければということで、地域包括ケアの実践交流会を企画しております。

この中で、2日連続ではあるのですけれども、医療・介護の連携のところ、認知症の部分、生活支援、介護予防の催しを1つのイベントとして、係内や庁内で取り組むということを目指す目標にして、市民の方へも御協力を訴えていきたいという企画を立てております。

特に参加の制限はございませんので、たくさんの方に御来場いただきたいと思っております。いろいろと周知のご協力をよろしくお願いいたします。

(高良委員長)

ありがとうございました。

庁内連携は難しいです。どこのところも、実は庁内連携が一番大変だと言われておりますので、皆さんも大変だとは思いますが、行政の中の連携も大きな課題になるということだと思えます。

4 閉会

(高良委員長)

それでは、時間になりました。これで第3回の「生活支援事業協議体」を終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。お疲れさまでした。